

NPOによるまちづくり活動の実状と課題*

—NPO法人「足利まちづくりセンター・VAN-NOOGA」の挑戦—
A Condition of Community Based Development Activities by NPO and Its Problems
Experience in Center for the Creation of Community in Ashikaga 'VAN-NOOGA'

中川三朗**・為国孝敏***

by Saburo NAKAGAWA** and Takatoshi TAMEKUNI***

1. まちづくりでのNPOへの期待

ここ数年、海外の事例を参考にして、全国各地の都市マスタープランにおける市民参加、道路計画にかかわる住民の合意形成、パブリックインボルブメント (PI ; Public Involvement) など、都市計画における新しい試みが研究され、実施されてきている。いつの頃からか、わが国では、都市づくり、まちづくりは行政側がやってくれるものであり、住民はその環境に適用することが是とされてきた。そのため、行政が提供する都市計画に異を唱えることは日本型むら社会では敬遠され、住民運動は全て反対運動であるかのような錯覚が広まるようになった。そこには、本来の民主主義が生み出す公共性の概念が乏しく、協調心のなさだけが一人歩きしている。都市計画の立案は、個人の種々雑多の主義主張を相互に納得するまで議論しあい、歩み寄り、折り合って共同社会を形成するためのルールを作るという、民主的な共同社会の基本事項すら忘れかけられていたのである。

一方、こうした社会的意識のもとで、戦後のわが国で進められてきた官主導型のインフラ (infrastructure) 整備は、経済発展の目標の中で大きな支持を得やすく、それが世界に類を見ない高度経済成長を成し得た根底にあることも否めない。全国各地の都市においても、インフラ整備を主役として利便性の高い生活空間づくりを追求する都市計画は、経済の発展こそが豊かさの象徴でもあった市民にとっては、疑うことなく受け入れる対象であった。しかしながら、高度成長が終わり、経済が安定

成長を迎えるようになると、都市生活者から快適空間づくりへの期待が高まってきた。この傾向はバブル経済が崩壊し、長引く不況と財政基盤の悪化の時代を迎え、さらに顕著なものになってきた。すなわち、「個」が見直され、「個人」のアイデンティティの確立が志向されてくると、都市そのもののアイデンティティが求められるようになってきた。歴史・文化・コミュニティの再発見から地域性を見いだそうとする、いわば人間主体の都市計画が志向されるようになってきた。ハードからソフトへ、量から質へ、物質文明から精神文明へ、21世紀を目前に控えた今日、時代の大きな転換期を迎えていると言っても過言ではないだろう。

こうした中で、従来の官主導型による都市計画とは異なるまちづくり、すなわち地域の実情を反映したまちづくりに対する要請から、市民の自発的な意思に基づいて公益活動を行う市民団体が出現してきた。そして、これらの団体、すなわち非営利組織 (NPO ; Non-Profit Organization) による取り組みや、まちづくりでの役割が期待されている。

では、NPO組織は実際のまちづくりの中で何がどこまでできるものであろうか。また、どのような役割が期待されるのであろうか。

本稿では、NPO法人として活動を続けている足利まちづくりセンター・VAN-NOOGA (以下VAN-NOOGA) の実状を報告し、具体的な活動の中で生じてきた問題を分析しながら、NPOによるまちづくりの課題について論じる。

2. VAN-NOOGAの設立に向けて

足利の中心市街地は、古くより商業や商店街などの様々な人が集まり、生活や娯楽などの交流の場となり、また、長い歴史の中で独自の文化や伝統が育まれてきた足利の顔である。しかし、近年、わが国

* keywords : NPO、まちづくり、足利まちづくりセンター

** 正会員 工博 足利まちづくりセンター・VAN-NOOGA会長
／足利工業大学教授 工学部土木工学科
(栃木県足利市大前町268, Tel. 0284-62-0605, Fax. 0284-64-1061)

*** 正会員 博 (工) VAN-NOOGA都市デザインイノベーション
／足利工業大学助教授 工学部土木工学科

多くの地方都市同様に、足利では人口の減少と高齢化、商業を取り巻く環境の変化などを背景に、中心市街地の衰退、空洞化とうい問題が深刻化してきた。こうした状況の中で、足利では青年会議所などが中心となって、「足利らしさ」を大切にしまちづくりへの動きが1995年より具体化して進められてきた。その後、市民主導によるまちづくりのための勉強会やイベント、先進地域への視察などを企画していく中で、行政と市民とがパートナーシップによりまちづくりを進めていくために、市民主導組織の設立気運が盛り上がってきた。

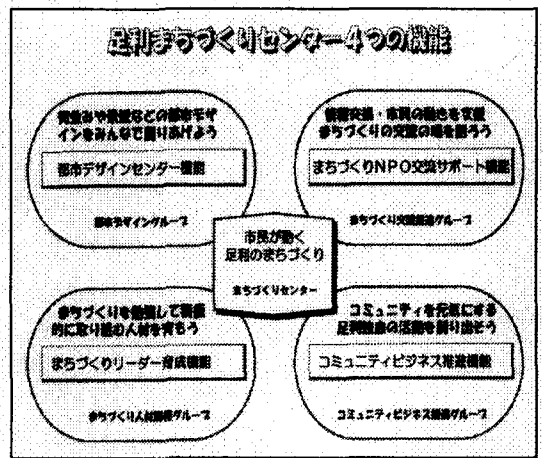
1999年4月、足利青年会議所の有志が中心となって、中心市街地再生に向けた市民主導組織の設立準備が進められ、わずか半年の間に10回以上の会合を繰り返しながら、組織体制を築き上げた。こうして、同年9月25日、足利まちづくりセンターVAN-NOOGAは、設立総会を迎えるに至ったのである。

足利は、世界に通用するまちとして大きな可能性を持っています。早利尊氏公ゆかりのまち、日本最古の学校である足利学校のあるまち、足利跡仙に代表される業々工業の業業したまち、詰るべき文化そして人材を育ててきたまちとして、足利の名は歴史の中に刻まれております。現在においても、美しい自然、史跡、暖びた風情の街並み、近代産業遺産などが、まちの財産として残っております。また、こうした先人達の起業家精神やまちづくり精神は、今なお、個性豊かな足利人の気質として、私たちの中に息づいています。しかし、近年、その足利の顔である中心市街地に活力が失われつつあります。中心市街地は都市機能が集積し、文化、伝統が育まれてきた「顔の街」です。そして「足利らしさ」の発信地でもあります。これからの足利の発展のためには、まず足利らしさの創出が大切であり、そのために中心市街地が再生することが重要なことだと考えます。さて、時代は21世紀を目前に大きな転換期を迎えております。これからの時代に求められる都市像も、単に大都市志向で発展を続けるだけでは、様々な面で行き詰まってしまふことは言うまでもありません。まちづくりもこれまでのように、行政に頼りきりではなく、市民一人ひとりが立ち上がり、市民主導で進めていくことが大切な時代であると思います。そこで、足利の、特に中心市街地のまちづくりに関して、行政と市民とがパートナーシップにより進めていく市民主導組織として、『足利まちづくりセンター VAN-NOOGA(ヴァンヌーガ)』を設立します。そして、市民が自由に参加できるまちづくりのための拠り所として、皆様の意見をいただきながら組織づくりを進め、足利の「まちなか創造運動」を推進していく拠点として動き出します。私達は足利人として、いつでも足利の持力を信じています。愛すべき足利のために動き出すことがうれしくてたまらないのです。多くの可能性を持った人材や、まちづくり団体を集結して、世界に通用する良質なまち「足利」を創り上げていきましょう。

図一 設立趣旨書

名称のVAN-NOOGAとは、足利のシンボルである足利尊氏ゆかりの鑊阿寺の「ばん」と、郷土の未来のために先人で戦った騎兵隊(Vanguard)の「VAN」と、奇跡の再生に成功した市民主導のまちづくりセンターのあるアメリカテネシー州の地方都市チャタヌーガ(Chattanooga)の「NOOGA」を合わせた造語である。設立総会には、会員総数68名のうち59名が参加し、図一に示す設立趣旨書を確認・可決し、さらに特定非営利活動法人(NPO法人)としての法人化、定款、事業計画等が確認・可決された。なお、会長には設立準備委員長である中川三期が選任された。なおNPO法人格は、12月9日に特定非営利活動法人の申請を行い、2000年3月28日に栃木県からの認証を受けた。

事業計画では、VAN-NOOGAが目標とする4つの機能が確認された。一つは、「まちづくりリーダー育成機能」で、まちづくりの人材開発、ファシリテーターの養成、子供達のまちづくり意識の高揚、などの事業計画を掲げた。二つ目は、「まちづくりNPO交流サポート機能」で、まちづくり広場の企画運営、まちづくり情報受発信体制、などの事業計画を掲げた。三つ目は、「都市デザインセンター機能」で、地域住民による市民主導型まちづくりの動きを支援、コーディネートすることを掲げた。四つ目は、「コミュニティビジネス推進機能」で、コミュニティビジネス調査研究、情報交換とネットワーク強化、コミュニティ経済最前線の研修、等の



図二 VAN-NOOGAの4つの機能

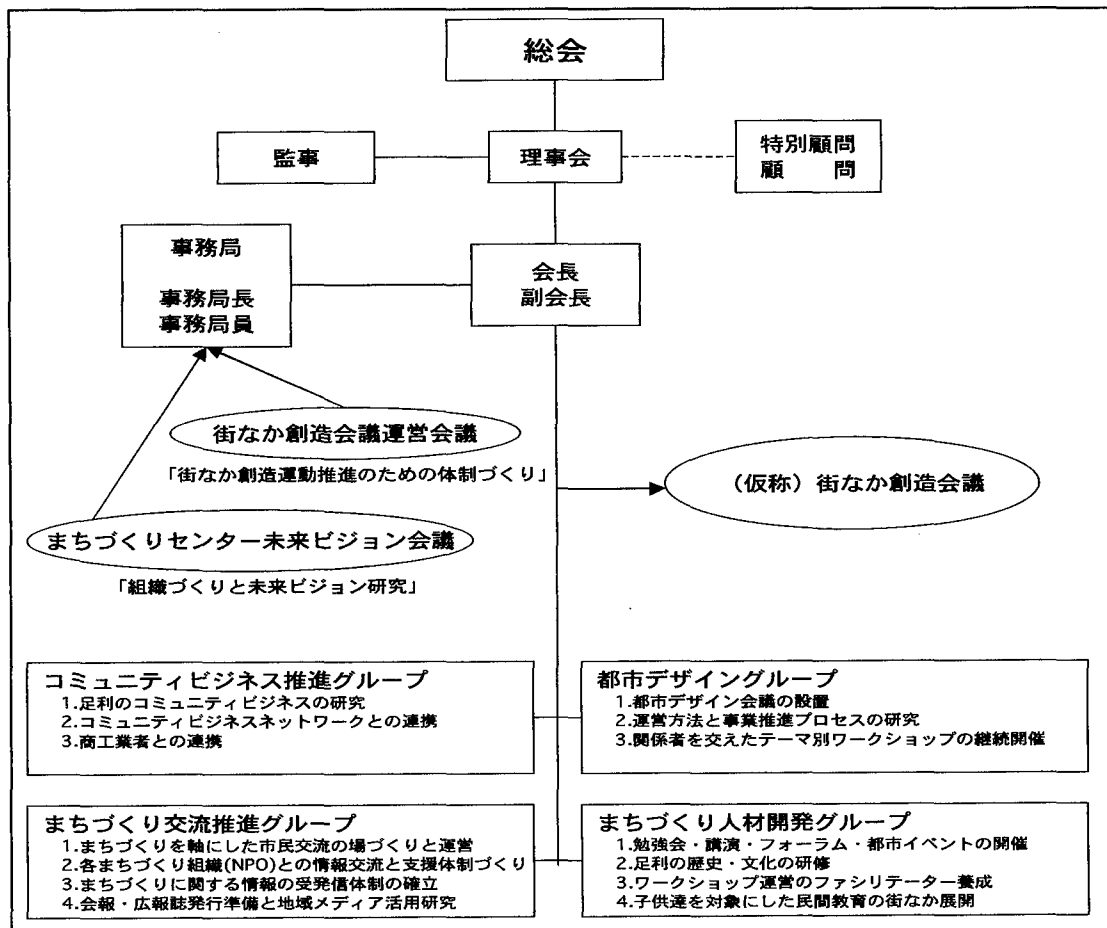


図-3 VAN-NOOGAの組織図

事業計画を掲げた。図-2に、VAN-NOOGAの4つの機能を示す。

図-3にVAN-NOOGAの組織図を示すが、役員は中心市街地で活動する市民グループや商店街、民間会社などから幅広く参画し、顧問には中心市街地の自治会長や商工会議所、市役所の代表者が、そして特別顧問には足利市長をはじめ県議会、市議会の議員や商工会議所、青年会議所の長が参画した。設立趣旨で掲げている行政と市民のパートナーシップを果たしうる体制とした。さらに、4つの機能を推進するためにメンバーによるグループを組織化した。

3. 活動の実態と課題

昨年9月に設立以後の活動は、グループ会議を中心に活発に会合を行ってきた。図-4にVAN-

NOOGAでの事業および会議の経過を示す。積極的な活動を行っているのは都市デザイングループである。ここでは、地元住民からの要望が早くから来ていたこともあって、中心市街地の自治会有志によるまちづくり勉強会と連携して、中心市街地の街路構成や町並み構成についてのデザインを行った。このデザインの策定にあたっては、行政や住民との意見交換を積極的に行い、両者の調整を図りつつ作図化を行った。まちづくり交流推進グループでは、地元のケーブルテレビであるわたらせテレビ(WATV)と連携して、中心市街地の再生に市民が感心を寄せていただくために、普及・啓発活動を行った。また、他地域のまちづくりグループとの交流や視察を行った。コミュニティビジネス推進グループでは、VAN-NOOGA会員によって設立した足利まちづくり株式会社と連携して、中心市街地においてTMOによ

るコミュニティビジネスの可能性について調査活動を始めた。まちづくり人材開発グループでは、中心市街地活性化シンポジウムや外部有識者を招いての勉強会などを実施した。2000年からは、より具体的な人材育成を図るため、都市デザイングループとの連携の基で地域住民を含めた勉強会を検討している。

こうして設立以来、ほぼ1年間の活動を行ってきたが、必ずしも当初予定の活動が順調にきているとは限らない。以下に活動を通しての課題を挙げる。

1) ボランティア活動による課題

活動しているVAN-NOOGA会員は、全てボランティアであり正業を持っている。そのため、時間的な制約が生じるため、活動は夜間が中心となる。また、会合ではグループ全員が集まりにくく、幅広い声を集約することが難しい。かつ作業量にも偏りが生じる。こうした弊害を如何に解消していくかは、作業を取りまとめるグループリーダーの課題でもある。

2) 住民意識の取り込みでの課題

活動によっては、中心市街地に住む方々の財産に抵触したり、住民個人の主義・主張と衝突することもある。市民主導のまちづくりを標榜するからには、住民との意識の共有化を図ることは当然であるが、調整の難しさは予想以上である。住民の要望はまちまちであるため、優先順位は慎重にならざるを得ない。

3) 行政と市民とのパートナーシップでの課題

街路などの公共空間を施行する行政と、民地空間を持つ市民と、こうした空間の利用しようとする市民など、相互のパートナーシップを図り、まちづくりについて同じ方向性を共有するためには、情報の共有化は必須条件である。情報を共有すること、お互いの自由な意見交換が保障されること、こうした中から目的を共有する真のパートナーシップが図られよう。

4) 活動財源での課題

VAN-NOOGAは、会員の会費によって運営されているが、設立当初はともかく安定的な活動が保障されるためには、何らかの財政的裏付けが求められる。独立資金をいかに確保するかが、市民主導型での活動を継続させる鍵となろう。

1999年度	
9月25日	足利まちづくりセンター設立総会
10月28日	理事会
11月6日	都市デザイングループ会議
9日	都市デザイングループ会議 (家三まちづくり勉強会三役と協議)
15日	中心市街地活性化シンポジウム「残る中心市街地の新世紀戦略と実践」
16日	都市デザイングループ会議
18日	都市デザイングループ会議 (家三まちづくり勉強会三役と協議)
22日	都市デザイングループ会議
27日	都市デザイングループ会議
12月2日	まちづくり交流推進グループ会議 (WATVと打合せ)
6日	都市デザイングループ会議
8日	家三まちづくり勉強会役員出席 都市デザイングループ会議
9日	特定非営利活動法人 (NPO) 認証申請
13日	都市デザイングループ会議
15日	足利市都市開発部市街地活性化課との協議
20日	都市デザイングループ会議
22日	まちづくり交流推進グループ会議 都市デザイングループ会議
27日	コミュニティビジネス推進グループ会議
29日	都市デザイングループ会議
1月12日	都市デザイングループ会議
13日	コミュニティビジネス推進グループ会議
14日	足利市道路線協議 (北仲通りの件)
17日	都市デザイングループ会議・まちづくり交流推進グループ会議
18日	過密省中心市街地活性化室・商業ソフトウェアエーションとの協議
19日	市街地整備に関する勉強会 (岸井隆幸先生 日本大学教授)
20日	正副会長リーダー会議
24日	都市デザイングループ会議
25日	まちづくり交流推進グループ会議 (WATV収録)
26日	理事会 都市デザイングループ会議
28日	足利市都市開発部市街地活性化課との協議 コミュニティビジネス推進グループ会議
31日	家三まちづくり勉強会役員出席 都市デザイングループ会議
2月1日	まちづくり交流推進グループ会議 (WATV収録)
4日	都市デザイングループ会議
5日	WATV「まちづくりセンターサテライト」放送開始
7日	足利市都市開発部市街地活性化課との協議 都市デザイングループ会議
9日	都市デザイングループ会議 (家三まちづくり勉強会三役と協議)
13日	まちづくり交流推進グループ会議 (WATV収録)
14日	まちづくり交流推進グループ会議 都市デザイングループ会議
15日	まちづくり交流推進グループ会議 (WATV収録)
21日	都市デザイングループ会議
24日	新事務所開設 正副会長リーダー会議
まちづくり交流推進グループ会議 (WATV収録)	
25日	とちぎまちづくり研究会出席 (宇都宮大学)
29日	家三まちづくり勉強会役員出席 都市デザイングループ会議
3月7日	家三まちづくり勉強会役員出席 (書籍、バまちづくり勉強会の説明会)
13日	正副会長リーダー会議
15日	家富町三丁目住民意見交換会
16日	家富町三丁目住民意見交換会
17日	家富町三丁目住民意見交換会
19日	家富町三丁目住民意見交換会
28日	特定非営利活動法人認証 (栃木県)
29日	理事会
2000年度	
4月10日	特定非営利活動法人登記 (法務局足利支局) 北仲通りまちづくりに関する有志会合
22日	定時総会
5月12日	足利まちづくり会社役員との協議
17日	足利市第5次振興計画基本構想見直し関係団体別相談会出席
18日	栃木県NPO支援策定会議出席
6月12日	足利市道路線協議 (北仲通りの件)
19日	栃木県NPO支援策定会議出席
28日	都市デザイングループ会議
29日	まちづくり交流推進グループ会議
30日	まちづくり人材開発グループ会議
7月3日	正副会長リーダー会議
4日	シーズセミナー出席「広がる NPOと自治体の協働領域」
9日	今市市まちづくりグループ「観望堂」視察受け入れ
17日	都市デザイングループ会議
21日	まちづくり交流推進グループ会議
28日	まちづくり人材開発グループ会議
8月1日	(仮称)まちづくりコンファレンス事業第1回運営委員会
7日	正副会長リーダー会議 理事会 (予定)

図一4 VAN-NOOGAでの事業および会議の経過